

令和3年度第3回移動教育委員会 懇談会発言要旨
(静岡県立清水南高等学校・同中等部)

開催日時：令和3年10月21日（木）午後1時20分～4時15分

場 所：静岡県立清水南高等学校

参加者：静岡県立清水南高等学校・同中等部職員、静岡県教育委員 など

1 学校概要説明及び取組

[教育目標]

校訓「富士の如く端正に 橘の如く香り高く」のもとに、普通科と芸術科を併せ持つ公立中高一貫校として、6年間の教育活動を通して、高い知性と豊かな感性・表現力を備え、国際社会に貢献できる人材を育成する。

- ・知性 確かな学力とともに、主体的に学ぶ態度や考える力を育てる。
- ・感性・表現力 他者とのかかわり合いを通して、規範意識や社会性、身体的・言語的表現力を育てる。
- ・国際社会への貢献 自国文化の理解を深めるとともにグローバルなもの見方・考え方を身につけ、社会に積極的にかかわっていく行動力を育てる。芸術活動を通して社会の人々の心の豊かさを育んだり文化の発展に寄与したりできる、技能・技術と態度を育てる。

[アカデミック・ハイスクールの取組]

校内にアカデミック・ハイスクール委員会を設置し、中等部と高校普通科及び芸術科において、中高生の表現力、深い思考力、対話力の育成にSPACと連携して取り組んでいる。

(1) 中等部「表現」

文部科学省から教育課程特例校の指定を受けて、全国唯一の「表現」の授業に取り組んでいる。SPACの俳優や技術スタッフから直接指導を受け、生徒からは、「舞台経験が豊富な俳優の先生方の指導はとても勉強になる」などの感想が聞かれる。

(2) 高校普通科「探求と表現」

中等部で培った「表現」をベースに、高校で更に深化させるため、地域や国際社会と関わる事象の探究活動を通じて、課題解決能力等の育成に努めている。令和4年度から演劇的要素を取り入れた「探求と表現」のカリキュラム研究と試行をSPACと連携して進めている。

(3) 高校芸術科における演劇専門教育の研究

音楽専攻と美術専攻に分かれて、スペシャリストの育成を目指し、専門的な指導を行っている。令和4年度から芸術科における演劇専門教育のカリキュラム研究をSPACや高校教育課と連携して進める。これまで持っていた教育資源に演劇を加え、生徒の表現力・思考力・対話力の育成することで、学校教育目標「高い知性と豊かな感性・表現力を備え、国際化社会に貢献できる人材の育成」を達成し、他校との差別化、本校の魅力化に繋げる。

2 授業見学等

- ・オンリーワン・ハイスクール事業（アカデミック・ハイスクール）の取組
- ・SPACとの連携授業「表現」等

3 懇談会

[中等部「表現」文化祭での発表の様子 (DVD 視聴)]

表現の授業（音楽・美術・体育を融合させた教科）での成果を文化祭で発表

1 年生：学校紹介をテーマにした 60 秒 CM を発表。絵コンテから生徒が作成

2 年生：ショークワイア（有名な楽曲を歌って踊る）で「応援」をテーマに発表

3 年生：ミュージカル「グレイティストショーマン」を発表。映画を見て 30 分の台本を生徒が作成し、ダンスや映像も創作

※「ショークワイア」とはチームで作る歌とダンスを組み合わせたパフォーマンス

[質疑応答]

○生徒について

教育委員

外国籍の生徒はどのくらい在籍しているか。

清水南

外国籍の生徒や外国をルーツとする生徒は少ない。

教育委員

地域特性などもあるが、多様な生徒がいることは、生徒にとって良い学習環境になると思う。

○通学について

教育委員

近隣の地域以外から通っている生徒はどのくらいいるのか。また本校に通うために転居や寄宿している生徒はいるか。

清水南

基本的に県外から通う生徒や寄宿している生徒はいない。遠方から 1 時間以上かけて通学する生徒は多い。

教育委員

それぞれの学校単位で特色を持つことが重要。社会からも求められており、自分の目指すもの、興味のある分野が学べる学校に入るために、地元以外からも入学希望があることが望ましい。

○中等部の授業について

教育委員

中等部は表現以外の芸術に特化したコースはあるか。

清水南

前教育課程では、「芸術選択」で中学生に美術・音楽を受けさせていた。現教育課程では行われていない。

○生徒間の交流について

教育委員

学年を超えた生徒間の交流はあるか。

清水南

体育祭や文化祭等の学校行事は一緒にやることが多く、学習交流会では、高1と中1、高2と中2などの組み合わせで高校生が中学生に勉強を教えている。

将来を見据えた活動として、中等部2年生が高校の授業を体験する取組も行っている。

○中高一貫校について

教育委員

中高一貫校で育った生徒とそうでない生徒の違いはあるか。

清水南

大きな違いはないが、中等部の生徒は本校の学習スタイルとして教え合うことが浸透しており、他校からの入学生も次第に影響されていく傾向にある。

中学生が高校生になった時、知っている先生がいることや生徒のことをよく理解している先生がいる点での違いはある。また、中等部にいけば、中学生の頃に教わった先生がいるため、生徒は相談しやすい環境にある。

受験がないため、勉強に対する意識が低くなってしまう面があるか、学校側で工夫していきたい。

教育委員

中高一貫教育の必要性を改めて感じた。教員の勤務年数は他校と比べて長いのか。

清水南

高校から中等部、中等部から高校と行き来することもあるので、長くなる場合もある。

○ICT教育について

教育委員

ICT教育については、十分な活用にまだ課題がある感じた。更なる取組の検討が必要である。

清水南

緊急事態宣言下で、教室内の密をどう防ぐかが最も課題であった。毎日登校することに不安のある保護者や生徒もいる中、中等部教頭から、分散登校とオンライン授業を半々で実施する提案

があり、「子供たちの学びを止めない」ことをコンセプトに中等部教員はすぐに行動を起した。

最初にオンライン授業を受けた生徒は、受け身で授業に参加していることが多かったが、オンラインの生徒同士でグループ活動体制を整えた結果、積極的な授業参加が増え、発言する機会が増えていった。

当初は、オンライン授業を実践しながら教員のスキルアップを進めていったが、Google や Zoom を活用する上で、教員・生徒ともに技術の向上が必要だと感じた。教育委員会からの ICT 活用に対する技術的支援（ICT 支援員の相談窓口や学校派遣）は非常に助かった。

現在は GoogleClassroom を授業に活用することで、次の緊急事態や学級閉鎖等の事態に備えている。

○表現の授業について

教育委員

表現の授業に「日本語」を加えて欲しい。時代とともに変化していくことは認識しているが、若者に日本語を大切にしてほしいと強く思っている。また、表現とは自分の思っている内面的なものを外にあらわすことであり、「ディベート力」や「ディスカッション力」の要素も必要だと感じる。

清水南

日本語を大切にすることについて同感である。特に、生徒自身が考えたことを言語化することは思考を深めるのに重要である。

中等部で表現を学んだ生徒が高校の総合的な探究の時間の授業で言語活動を行っており、発表やポスターセッション等を行っている。演劇的な要素は、言語化のための思考力や対話力に深く関わると思う。

教育委員

表現の授業と他教科・生活との関係性や変化はあるか。

清水南

美術の授業で、作品制作の前段階に、生徒同士でアドバイスをし合う活動をしている。

自分が作りたいものを正確に伝えること、聞き手はしっかり理解して適切にアドバイスすることができている。

表現の授業では、大勢で1つのものを作り上げる時に多くの意見が生まれる。良い点をさらに良くするための話し合いが、表現の授業だけでなく、さまざまな意見交換の場でもできていると感じる。

教育委員

表現を通じて+αの能力が身に付くことが魅力的だと感じる。インプットだけでなくアウトプットの能力を身に付けた生徒が、高校やその先でどのような活躍をしてくれるのか、単に芸術の世界でアーティストとして活躍するだけでなく、世の中に対してどのように活躍するのか楽しみ

にしている。

○オンリーワン・ハイスクールについて

教育委員会事務局

オンリーワン・ハイスクールで研究をしているが、生徒たちの目標設定が重要である。プロの育成なのか、独自の教育を取り入れることで生徒たちのより生き生きとした進路を切り拓く手段の一つとするのか。表現の授業だけでなくさまざまな教科を通じて、この学校で何を求めていくか、生徒たちに何を伝えていくかより一層研究してほしい。

また、ディベートができる、自分の意見をはっきり言える、良い意味で生意気な生徒たちが増えていくことは、静岡県の未来にとっても日本の未来にとっても良いことである。データや根拠に基づいて主張できる生徒たちが更に育っていくと良いと感じた。

○SPAC との連携事業について

教育委員会事務局

以前、創立 50 周年記念式典で表現の発表を見て、素晴らしい取組だと感じていた。

SPAC との連携事業はまだ数回の実績しかないと思うが、生徒たちを見ると、みんなのびのびとやっていると感じる。人間関係作りも含めて良い形でできていて、これからがとても楽しみである。

表現で学んだことを教科横断的につなげ、生き方や考え方にまで広がる取組をしていただきたい。今回の授業見学も、主体的・対話的・深い学びが実践されている取組であり、これからの未来につながっていく期待感を持った。

SPAC との連携事業による生徒の変化はあるか。

清水南

舞台経験のある方に具体的に指導していただくことで、生徒たちに新たな気付きが生まれている。今までの積み重ねもあったが、新たな視点でアドバイスいただき、生徒たちの良い刺激になり、「そういう表現の仕方もあるのか」と視野の広がりも感じている。

○学校からの要望

清水南

遠くから通学する生徒や朝早くから学校に来て自主的に制作している生徒が多数いる。少しでも実技の時間を増やしてあげたい。

教育委員

寄宿舎という選択肢はどうか。借り上げて学校が支援する方法もある。保護者の意見もあると思うが、通学時間が長くもったいないと感じる。

清水南

いろいろな選択肢を提供できるという意味では良いと思う。

教育委員

寄宿舍生活も1つの体験として糧になる可能性もある。県内ではそういう事例はないのか。

教育委員会事務局

焼津水産高校では、水産高校がない他県からの生徒を受け入れるため、寮がある。佐久間分校も寮がある。

教育委員

今後、芸術科に入りたいと希望する生徒が増えた時に、そういった施設があると保護者も安心して送り出せるのではないか。